



見に来てください、私たちの姿

細野中学校3年 平川 凜

細野中学校は、笑いが絶えず、皆が一致団結して集う、私たちが誇りに思う学校です。

最近、いじめが原因で自殺してしまうという悲しい事件が各地で起きています。そこで、本校からそういった悲劇を生みださないために、私たち生徒会は三つの活動に取り組んでいます。

一つめは、いじめ追放宣言の作成です。いじめをなくすための方法を、全校生徒で考え、それをもとに作成しました。二つめは、いじめ追放宣言の唱和です。週に一回、この宣言を唱和することで、目指す姿を念頭において行動できるようにしています。三つめは、いじめに関するアンケートの実施です。月に一回、困っていることがないかアンケートを実施し、



その結果を生徒集会で報告しています。これは、生徒同士がアンテナを高くし、困っている人がいたらすぐに手を差し伸べようという思いで行っています。これらの取組がしっかり機能してほしいと願うとともに、それ以前に人の痛みがわかる細野中の生徒でありつづけたと思います。そして、互いの思いを伝え合い、共に伸びていく学校であり続けるよう、これからも努力していきます。

どうぞ、細野中にいらしてください。私たちが校内を案内します。古い校舎ではありますが、私たちの親はとて懐かしく思ってくれてます。今後も残ってほしい校舎の思いも同じように残ってくればいいなと思います。



SPORTS

オリンピック育成合宿・クロスカントリーコース完成



日本陸連推薦選手の練習の様子

次世代のトップアスリート集う

8月4日から7日、日本陸上競技連盟オリンピック育成競技者女子長距離研修合宿が小林市と高原町で行われました。日本陸連推薦選手20人を含む38校の高校生や指導者など290人が来市。一流の指導者の下、ジュニア世代が交流を深めました。

また、6日には文化会館でNPO法人ニッポンランナーズの金哲彦代表による講演会が開催されました。オリンピック選手の事例を挙ながら「将来、出場できるような選手になつてほしい」とエールを送りました。



整備されたクロスカントリーコース

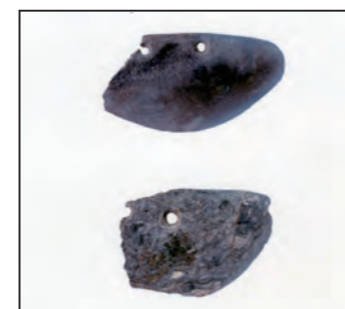
クロスカントリーコース完成

8月4日、クロスカントリーコースのオープンセレモニーが総合運動公園で開催されました。テニスコート周辺に整備された全長630m、高低差7mのコースで、既存のジョギングコースや陸上競技場内トラックを併用することで、2,000mの設定も可能。8月10日から一般開放され、陸上選手の練習だけでなく、誰でも気軽にジョギングやウォーキングなどを楽しめます。詳しくは保健体育課(TEL22-7911)まで問い合わせください。



小林の考古学③～地域コミュニティが誕生した弥生時代～

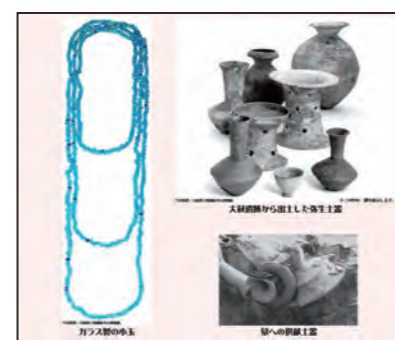
Vol.56



宮地遺跡で見つかった石包丁

縄文時代が終わり、弥生時代になると朝鮮半島から稲作が伝わってきます。人々の生活は狩猟採集を中心としたものから農耕を中心としたものへ変わり、定住をして集団で生活し、ムラを形成するようになったと考えられています。

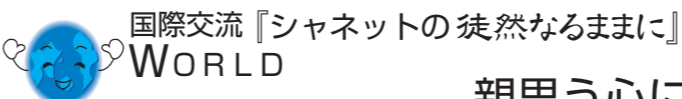
須木の宮地遺跡からは、稲の穂を刈る道具である石包丁が見つかっており、稲作が小林にも伝わっていたことが物語るものです。また、野尻町三ヶ野山の太萩遺跡からは、弥生時代の土坑墓が数多く見つかりました。その中のいくつかの墓からは、ガラス製の小玉が見つかっており、首飾りとして遺体と一緒に埋葬されたと考えられます。当時としてはかなり貴重な首飾りでした。



太萩遺跡で見つかった遺物

9月20、22日には、二原遺跡公園で地下式横穴墓から出土した遺物を展示する遺跡展を開催いたします。古墳時代に、この地域で大きな力を持つていた豪族の墓と考えられる遺跡です。ぜひお越しください！

していった人物こそ、この地域のリーダーと言えます。ムラを形成し、集団で生活し始めた人々は、お互いに協力し合うことで各々の役割が生まれたことでしょう。その役割の一つとして集団を取り仕切るリーダーが現れ、身の差みたいなものが生まれたのではないのでしょうか。後に豪族と呼ばれる人たちが、この時に誕生したのかもしれない。



国際交流『シャネットの徒然なるままに』

WORLD

親思う心にまさる親心

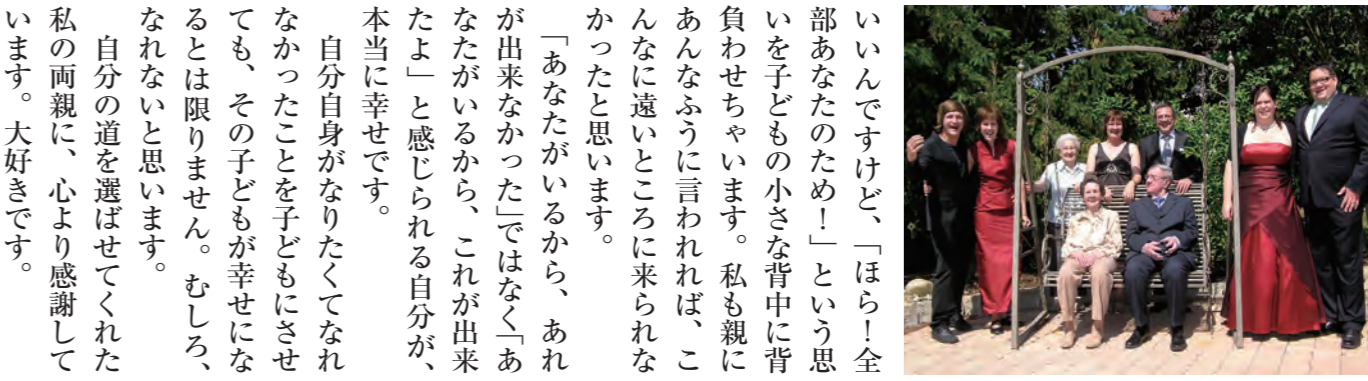
Vol.18

日本とドイツは遠く離れています。普段はそういうふうによく感じないのに、最近色々あって、何千キロの距離を自覚しています。

ドイツでも珍しくなってきましたが、私は小さい頃から祖父母と一緒に暮らしていました。家族との繋がりはもちろん、祖父母との繋がりはもそれだけ強いです。お婆ちゃんたちに甘やかされたり、叱られたりしました。お爺ちゃんとお無口な会話をしたりしました。お兄ちゃんや遊んだり、喧嘩をしたりしました。そして、親に見守られ、いっぱい背中を押してもらいながら、すくすく大きくなりました。

日本では、自分の家族を褒めると自慢していると思われがちです。でも、ドイツでは違います。言葉に表した親孝行なのです。もちろん、私の親は誰よりも素晴らしい親だと思っています。

日本では何回か聞いた話なんです。親が子どものためにずっと働いていて色々我慢します。それで終わればまだ



自分自身がなりたくてなれなかったことを子どもにさせても、その子どもが幸せになるとは限りません。むしろ、なれないと思います。

自分の道を選ばせてくれた私の両親に、心より感謝しています。大好きです。

「あなたがいるから、あれが出来なかった」ではなく「あなたがいるから、これが出来たよ」と感じられる自分が、本当に幸せです。

いいんですけど、「ほら！全部あなたのため！」という思いを子どもの小さな背中に背負わせちゃいます。私も親にあんなふうにならなければ、こんなに遠いところに来られなかったと思います。